

月刊 サンエスウォッチング Vol.13

「OnebyESU カーボンフロントフォーク 開発の変遷」

第1章 3つの和

MIZUNO

TESTACH

OnebyESU

<先駆となったミズノ製カーボンフォーク>

1990年代、ロードレーサーのフレームにアルミが投入されはじめた頃、フロントフォークの素材はスチールが主流でした。そんな中、カーボンを本格的に取り入れ始めたメーカーのひとつに、日本の「ミズノ」がありました。ミズノはチネリの歴史的フレーム「レーザー クロノストラダ」を作ったことでも有名なイタリアの名工「アンドレア・ペゼンティ」氏を開発パートナーとして、先駆的なカーボンフロントフォークの開発に乗り出しました。製品の基本条件は欧州レースでの実戦使用を想定し、当時『直線道を時速70kmで手放し走行できるか、と、時速60kmでスムーズなコーナリングが可能か』でした。実戦で「マルコ・パンターニ」が、その絶頂期時代に使用したミズノ「04A」(コラムはスチール)は、彼がその時(1997年)にツールで最速記録を叩き出した峠のある地名を入れて「L'Alpe-d'Huezのカーボンフォーク」と呼ばれ、後にこのモデルのフルカーボン仕様が「アルプデュエズ SL」という名称となって日本国内では弊社から他のモデルとともに販売しました。



パンターニが使用した「04A」のチタンコラムバージョン「01F」は「アルプデュエズ SL」の原型となる

<ミズノと共に開発したテストタッチカーボンフォーク>

時を同じくして弊社では、東洋フレームと協働しフレーム作りをスタート(1996年)しており、ミズノフォークを初期から採用。その後「テストタッチ」ブランドを立ち上げ、ミズノの技術協力のもとフレーム作りのノウハウを盛り込んで、ミズノ製テストタッチデザインのカーボンフォークを2000年にリリース。このモデルは今やスタンダードとなった「インテグラルヘッド(当時はゼロスタックダイレクトドライブシステムと言った):CANE CREEK(TANGE SEIKI)」を1-1/8"ヘッドチューブの設計とともに開発し取り入れたもので「テストタッチ/ミズノカーボンフォーク」という名称で発表。後にミズノとのコラボレーションモデルは1-1/8"インテグラルの「MR-36(フルカーボン)700Cと650C」と「MA-27(アルミコラム&クラウン)」、ノーマルクラウンの「MA-18(アルミコラム&クラウン)」を展開。1インチモデルはミズノブランドで「アルプデュエズ SL」と「MA-16(アルミクラウン)」を継続していました。その後、ミズノは自転車事業から撤退することとなります。



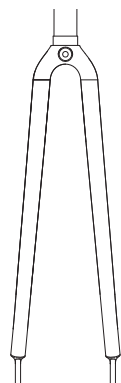
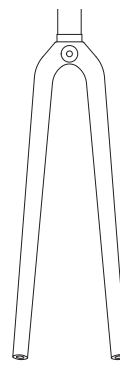
最先端を歩んだ「ゼロスタックダイレクトドライブ ZS DD」デザインのテストタッチ/ミズノカーボンフォーク



ヘッドチューブにベアリングを直接挿入する画期的な方式はタンゲセイキが開発生産するCANE CREEKの特許製品としてその後のスタンダードとなった

<ワンバイエスの誕生を支えたオリジナルフォーク>

2007年に誕生した「ワンバイエス」。ブランドコンセプトは「カーボン製品をメインに世界トップレベルのハイエンド製品を日本のライダーにあった内容で提供すること」。自転車の根幹となるフレーム=テストタッチとのコラボレーションからスタートしたのがブランド最初の商品となったカーボンフォーク「OBS-R1」「OBS-C1」です。それまでのミズノとのノウハウを活かし、ロードとシクロクロス向けモデルをスタート早々に5種類発表しました。それまでのミズノとの開発がなければ成し得ない難しい取り組みでした。2011年には初のディスクブレーキモデル「OBS-CBD」、2012年にはミズノ時代の開発技術者と工場のサポートもあり、日々更新される厳しい安全基準をパスした「アルプデュエズ SL」のアップデートバージョン、1インチフルカーボンモデル「OBS-R101」を発表するに至ったのです。



「OBS-C1」はテストタッチ得意のシクロクロスに合わせ設計したワンバイエスのファーストモデル

左のイラストはミズノの歴史的な名品「アルプデュエズ SL」隣がそのアップデート「OBS-R101」と完成したフォーク

～フレームに調和するフォークの開発～

年々オリジナルカーボンフォークの製品レベルは上がりました。しかしその後、製品にどれだけ「日本のライダーにあった内容」を盛り込むことができるか、が、それまでも増して明確な開発テーマとなっていました。つまりそれは「月刊サンエスウォッチング Vol.3」でも触れていますように、多種多様なフレームジオメトリーに対し、快適に心地よく調和するフォークを提供するというテーマです。

●次回(8/9)の月刊サンエスウォッチングは「OnebyESU カーボンフロントフォーク 開発の変遷」第2章を予定しています。
最新販売モデルの詳細や2020年新製品の情報も掲載する予定です。